

生きるための集中力

文学部人文学科日本文学専攻 2年 浅野圭亮 011600022

私は今まで何を目的にフランス語を勉強してきたのだろう。フランス語で書かれた小説を読みたい。フランス語の音楽を意味を理解しながら聞きたい。そういった明確な目的もなく、ただなんとなくフランス語が上達したらいいなと思いつつ勉強を続けてきた。二年間フランス語を勉強したが、どうもフランス語が身についた感じがしない。なんというか、付け焼き刃な感じ。正直なところ、今回の語学研修に参加してもそんないやな感じが残るのではないかと不安があった。しかし、それはいらぬ心配であった。語学研修中は生きなければならぬという強い目的があった。皆さんは「お冷や」という言葉をフランス語でなんと言うかご存じだろうか。正解は「une carafe d'eau」である。これがわからないとレストランでお冷やは頼めない。アルザスの料理は量が多いから、水を全く飲まずに食べきことは到底無理なことだろう。そこで私はのどの渇きで死なないために必死でこの語を覚えた。そのときの集中力はこれまでの勉強中には見られないものだった。しかも私のテーブルは人が多く、よく水を飲むものだから、よくこの語を聞いたり話すことになった。おかげで私はお冷やが頼めないために死ぬという事態にはならずすんだ。集中力と反復。これが語学上達の秘訣か。こういった、人々が生活する上でよく使う語をいかに吸収するかが私のような外国人がフランスで生き残るためには肝心であると痛感した。よく使う語といえば数字もそうだ。フランスを楽しむためにはどうしてもお金がいる。美味しいアルザス料理を食べたらお金を払わないといけない。綺麗なお土産が欲しいなら相応のお金と交換しなければならない。フランス人は時間にルーズとはいうものの、時計を使って生活をしている訳だから、時間の話にもなる。そしてこれらの話には必ず数字が登場する。外国語で数字を理解することは私にとっては困難なものだった。まず相手の口から出た数字を正確に聞き取らなければならない。そしてその語が数字の何にあたるのかを思い出さなければならない。という訳でこの難しい過程を経てようやくその数字を理解するに至るのだが、私はこれがとても遅かった。しかし、研修中数え切れないほどのお会計を経験した私は研修後半には以前よりも自然に数字を理解できるようになった。やはり語学上達のためには反復が必要なのだと思う。

コミュニケーションは言葉だけとするものではない。同じ語学研修のメンバーだった E 君はそのことを私に教えてくれた。E 君はネイティブのようにフランス語を操る、というように特別上手というわけではない。なんなら「天皇」「八神（愛知県の宝石店）」という語を使っていた。私は相手の言ってる言葉を聞き取らなければ、とか、今話している言葉は正しいフランス語なのかといった事を常に気にしていた。しかし、彼は堂々と、笑顔で、体を使ってフランス人と話しており、相手を楽しませていた。言葉に頼ることのできない外国にいるときは、言葉以外のことでコミュニケーションを取ることが大事ということを見

て思った。

ストラスブールで生活していると、日本で生活していたときとは生活習慣が大きく変化する。私は早寝早起きになった。もちろん観光疲れだとかもあるかもしれない。しかしそれよりも街の状態、雰囲気がそうさせたのだと思う。ストラスブールの街はすぐに暗くなる。日本のように24時間営業のコンビニもないし、スーパーも午後八時には閉店する。となると街の人々も外にでる理由もないし、むしろ暗くて危ないので家に帰ることになる。なんというか、夜九時以降は外を出歩く空気ではなかった。そして寝て、朝は授業のために起きた。このように日本にいたときとは打って変わって、私は健康的な時間に寝て、健康的な時間に起きるようになった。フランスには日本にはないゆるさがあると思う。日本には電車で寝ても大丈夫だとか、ATMや公衆電話で背後に注意を払う必要はないといった治安面でのゆるさがあるが、フランスは良い意味でルーズという感じがする。言い換えれば自分に優しく、多少気を抜いてもいいや、という感じ。気を抜いて他人にフランクに接する。このゆるさは日本的な考え方しかなかった私には衝撃的だった。現地に行かないと分からないことだと思う。心のゆるめ方を実際に自分の体で学ぶことができた。

ストラスブールと名古屋で異なる点を挙げるとしたらきりがない。目で見えるものから見えないものまで何度もその違いに驚かされた。驚いたのはそれが日本のものとは違う、新しいものだったからだ。その新しいものに込められた時代背景、考えを知ることでこれから自分がなにかを考えるとときの考えの広さが変わった。他の国の言語を他の国で学ぶということはとても良いことだと思う。私はフランス語を学ぶことができたのもうれしいが、それ以上にフランスの文化、価値観を学べたことがうれしい。日本だけにいたら新しい考え、価値観に出会えることはそれほど多くはない。まして同じような生活をして、同じような人と同じような会話をしていたらなおさらそうだろう。今回の語学研修では毎日が驚きの連続だった。それはつまり毎日新しい価値観を学んでいたということだ。有意義な研修だった。